

3章 クロス集計結果・分析

1 クロス集計の手順

児童生徒・保護者について、それぞれの質問間の関連を見るために、クロス集計を行った。ただし、すべての項目での組み合わせでは膨大な数になることから、一人一人の回答を得点化し、その得点の状況により回答者を4つのグループに分けて行った。

手順を具体的に説明する。

(1) 「 家庭でのしつけに関すること」、「 ルールやマナーについての善悪の判断に関すること」について、それぞれの回答選択肢の番号を得点とし、 では19項目、 では16項目のすべてを合計し、一人一人の得点とする。

(2) 質問内容のまとめりごとに、児童生徒・保護者とも、得点が低い方から（その傾向が高い方から）4つのグループに分ける。（得点による4分位法）

児童生徒の を例に、その方法を説明する。

番号		項目				項目			
		よく言われる	ときどき言われる	あまり言われない	まったく言われない	よくできている	だいたいできている	あまりできていない	まったくできていない
1	家族そろって食事をする	1	2	3	4	1	2	3	4
2	毎日、朝食を食べる	1	2	3	4	1	2	3	4
3	自分で起床する	1	2	3	4	1	2	3	4
18	お金を大切にする	1	2	3	4	1	2	3	4
19	物を大切にする	1	2	3	4	1	2	3	4

選択肢の番号を得点とみなし、質問内容のまとめりごとにすべての項目の得点を合計する。

すべて「1」であれば、合計得点は「19」

19 ~ 32 (14点幅)	グループ1
33 ~ 46 (14点幅)	グループ2
47 ~ 61 (14点幅)	グループ3
62 ~ 76 (15点幅)	グループ4

すべて「4」であれば、合計得点は「76」

では最小 19・最大 76、 では児童生徒が最小 16・最大 64、保護者が最小 16・最大 48 となり、例えば、児童生徒の - では、値が小さいグループ 1 ほど「言われる」という傾向が高く、逆に値が大きいグループ 4 ほどその傾向が低いことを表している。

(3) 同様に、他の質問内容のまとまりについても 4 つのグループに分ける。

グループ	児童生徒・保護者	児童生徒	保護者
1	19 ~ 32 (14)	16 ~ 27 (12)	16 ~ 23 (8)
2	33 ~ 46 (14)	28 ~ 39 (12)	24 ~ 31 (8)
3	47 ~ 61 (15)	40 ~ 51 (12)	32 ~ 39 (8)
4	62 ~ 76 (15)	52 ~ 64 (13)	40 ~ 48 (9)

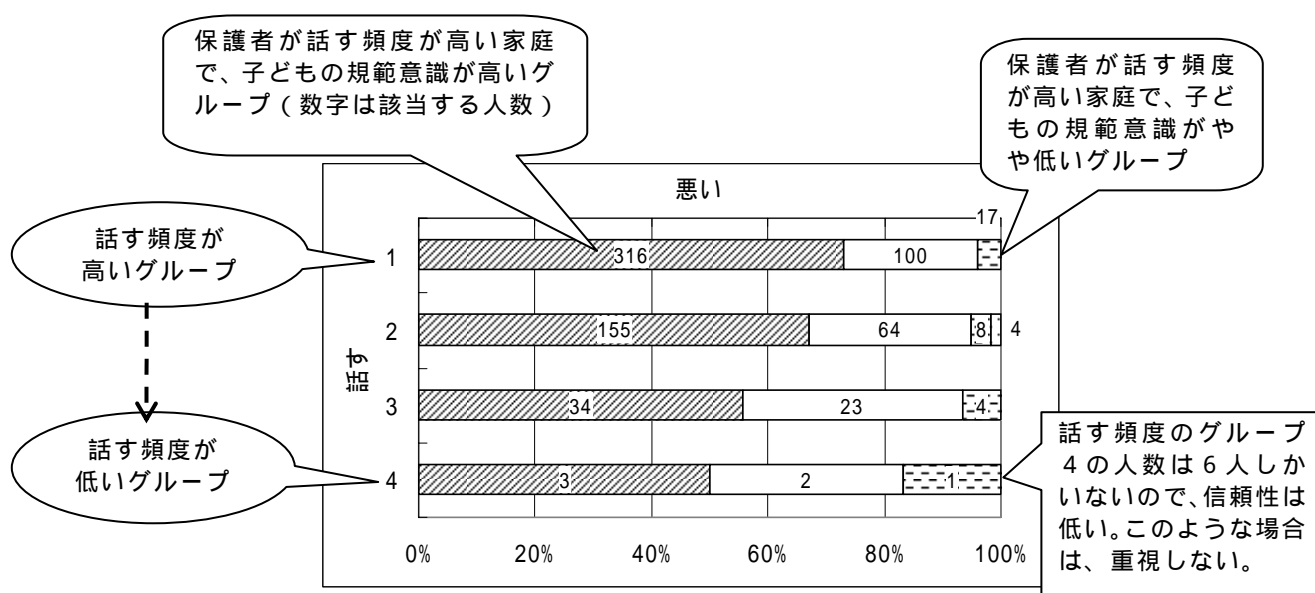
() 内は得点の幅を示している

(4) 児童生徒の (1)、 (2) については、4 つあるいは 2 つの選択肢の番号をそのまま得点とする。

(5) これらについて、1 つのまとまりあるいは項目とその他すべてのまとまりや項目とクロス集計を行う。児童生徒と保護者の間でのクロス集計は、同一家庭の児童生徒と保護者で行っている。

クロス集計結果の見方

「保護者 - しつけに関することを話す頻度」×「児童生徒 - 悪いと思う程度」の例



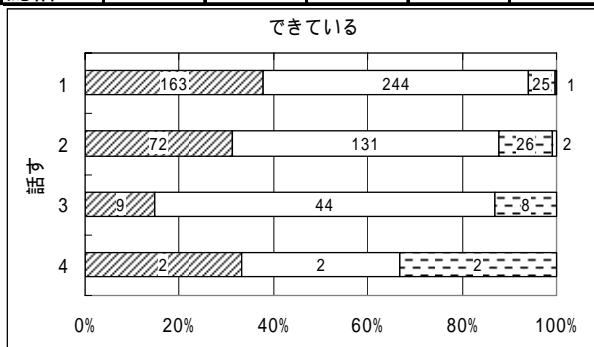
2 クロス集計の結果

家庭でのしつけについて必要性や大切さを言って聞かせている家庭では、子どもにしつけが身に付いており、規範意識が高い傾向がある。

(1) 「保護者 - しつけに関することを話す頻度」×「児童生徒 - しつけに関することができている程度」

家庭でのしつけに関することを、保護者が、その必要性や大切さを子どもに話したり、言って聞かせたりしているグループの家庭では、児童生徒がしつけに関する「できている」と回答している割合が高く、しつけが身に付いている傾向がある。

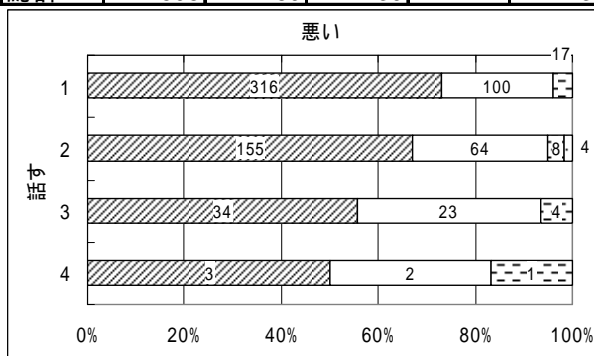
	児 -				
保 -	1	2	3	4	総計
1	163	244	25	1	433
2	72	131	26	2	231
3	9	44	8		61
4	2	2	2		6
総計	246	421	61	3	731



(2) 「保護者 - しつけに関することを話す頻度」×「児童生徒 - 悪いと思う程度」

家庭でのしつけに関することを、保護者が、その必要性や大切さを子どもに話したり、言って聞かせたりしているグループの家庭では、児童生徒が、 の項目のような行為について「悪い」と回答している割合が高く、規範意識が高い傾向がある。

	児 -				
保 -	1	2	3	4	総計
1	316	100	17		433
2	155	64	8	4	231
3	34	23	4		61
4	3	2	1		6
総計	508	189	30	4	731

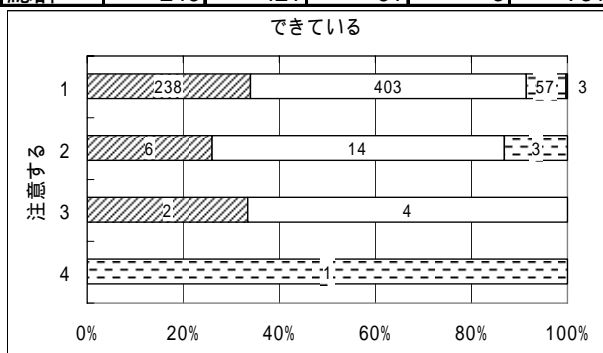


保護者から注意される子は、子どもにしつけが身に付いており、規範意識が高い傾向がある。

(3) 「保護者 - 自分の子どもに注意すること」×「児童生徒 - しつけに関することができる程度」

の項目のような行為を自分の子どもがしたときに注意をすると回答した割合が高いグループの家庭では、児童生徒がしつけに関することが「できている」と回答している割合が高く、しつけが身に付いている傾向がある。

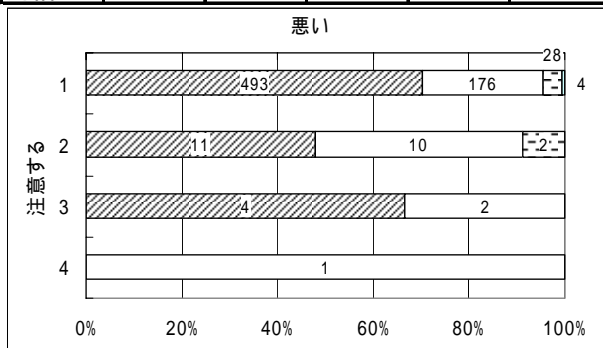
	児 -				
保 -	1	2	3	4	総計
1	238	403	57	3	701
2	6	14	3		23
3	2	4			6
4			1		1
総計	246	421	61	3	731



(4) 「保護者 - 自分の子どもに注意すること」×「児童生徒 - 悪いと思う程度」

の項目のような行為を自分の子どもがしたときに注意をすると回答した割合が高いグループの家庭では、児童生徒がそれらの行為について「悪い」と回答している割合が高く、規範意識が高い傾向がある。

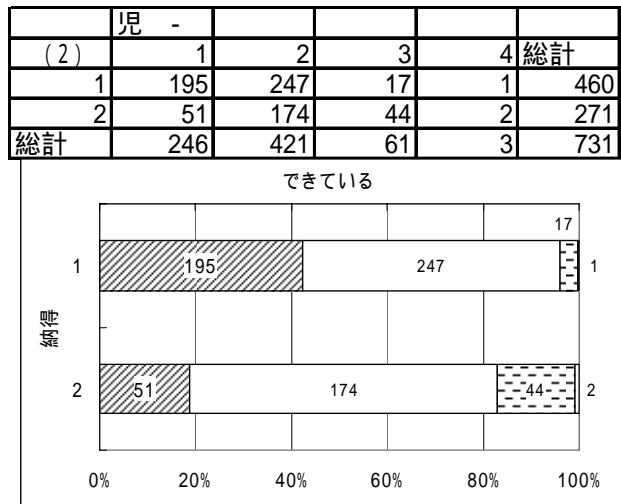
	児 -				
保 -	1	2	3	4	総計
1	493	176	28	4	701
2	11	10	2		23
3	4	2			6
4		1			1
総計	508	189	30	4	731



家族からの注意や意見に納得できる子は、しつけが身に付き、規範意識も高い傾向がある。

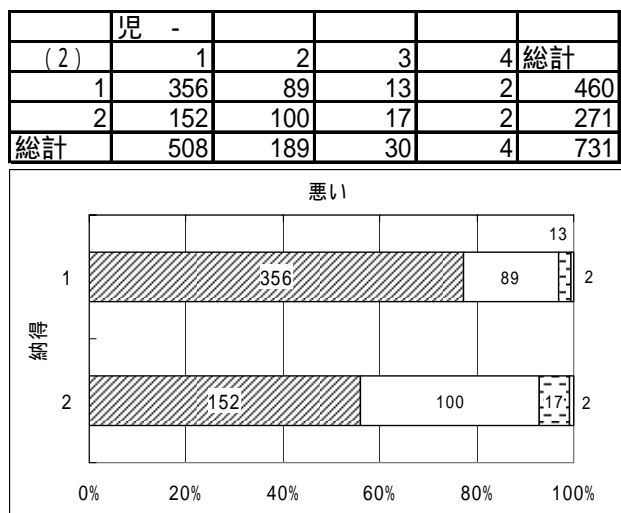
(5) 「児童生徒 (2)家族の注意に納得できること」 × 「児童生徒 - しつけに関することができている程度」

家族からの注意や意見に納得できることが多いグループは、しつけに関することが「できている」と回答している割合が高く、しつけが身に付いている傾向がある。



(6) 「児童生徒 (2)家族の注意に納得できること」 × 「児童生徒 - 悪いと思う程度」

家族からの注意や意見に納得できることが多いグループは、児童生徒が、 の項目のような行為について「悪い」と回答している割合が高く、規範意識が高い傾向がある。

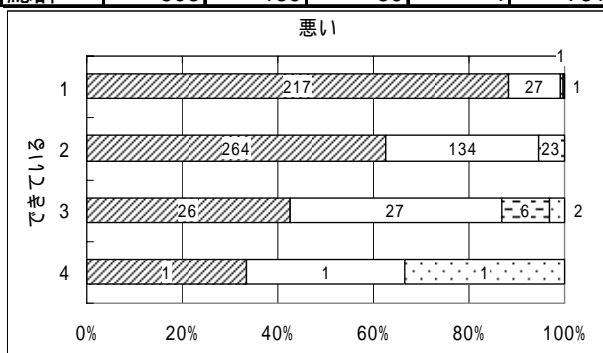


しつけが身に付いている子は、規範意識が高い傾向がある。

(7)「児童生徒 - しつけにすることができている程度」×「児童生徒 - 悪いと思う程度」

しつけにすることができているグループは、の項目のような行為について「悪い」と回答している割合が高く、規範意識が高い傾向がある。

	児 -				
児 -	1	2	3	4	総計
1	217	27	1	1	246
2	264	134	23		421
3	26	27	6	2	61
4	1	1		1	3
総計	508	189	30	4	731



(8)「児童生徒 - しつけにすることができている程度」×「児童生徒 - 他人の行動に対していやな気がする程度」

しつけにすることができているグループは、の項目のような行為をする人がまわりにいたらどう思うかという問いに、「いやな気がする」と回答している割合が高く、規範意識が高い傾向がある。

	児 -				
児 -	1	2	3	4	総計
1	188	52	5	1	246
2	164	207	42	8	421
3	23	19	16	3	61
4		2		1	3
総計	375	280	63	13	731

